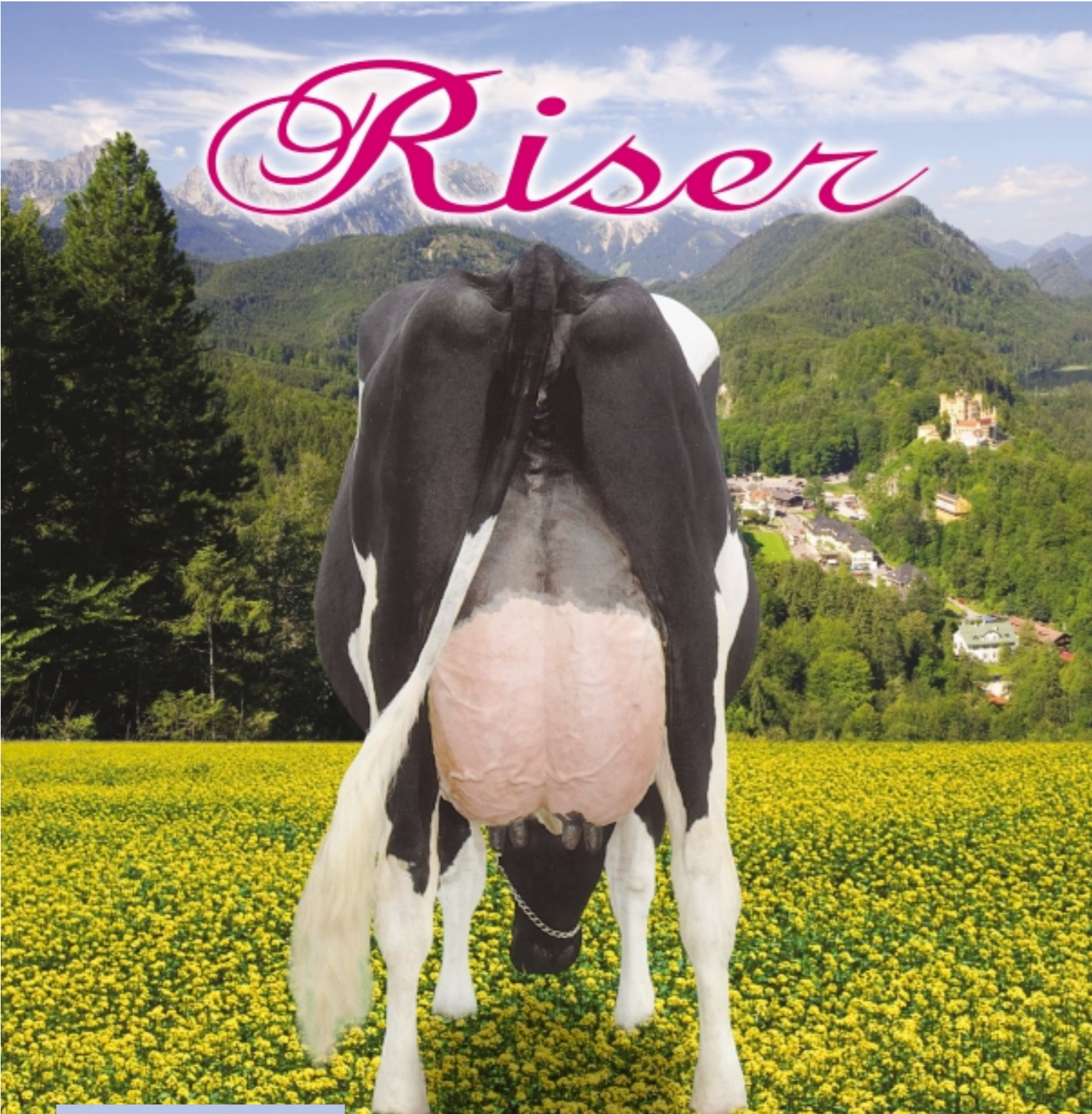


Riser



未来を拓く 次世代づくり

発行所：社団法人 ジェネティクス北海道

発行人／松尾 誠之

平成24年5月18日号

Sire

サイア

Vol.394

5月号



JP3H54332 **ライザー** ET TL/TV 89点

父：ジェニール-MRSHL トイストーリーET 母：ストーンリバー ジャスト ブランディ ET VG-86 母の父：オービー マンフレッド ジャステイス ET

- トータルバランスに優れたトイストーリー息子牛
- 安定した泌乳能力と底面高く付着の強い乳器

写真撮影／ホルスタインマガジン社

グリーンハイツ FC ジャスミン 85点 乳器 87点 (3才)
旭川市／加藤孝志氏 所有 母の父／グリーンハイツ モブスター ET



〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目1番地 北農ビル13F

〈業務部〉
TEL(011)242-9645
FAX(011)242-9651
〈改良部〉
乳牛改良課
TEL(011)242-9646
肉牛改良課
TEL(011)242-9647

●道北事業所	TEL(0166)57-6111	FAX(0166)57-6113
●道東事業所	TEL(0153)72-4554	FAX(0153)72-1325
●道央広域事業所 広域	TEL(011)375-4395	FAX(011)375-4411
	道央 TEL(011)375-4422	
●十勝北見事業所	TEL(0156)63-3838	FAX(0156)63-3839
●十勝清水種雄牛センター	TEL(0156)62-2158	FAX(0156)62-2150
●道央種雄牛センター	TEL(011)375-3939	FAX(011)375-2330

ホームページアドレス <http://www.genetics-hokkaido.ne.jp>

「反芻」画：富田 美穂 ブログ「うしのつむじ」<http://usinotumuji.blog28.fc2.com/>

CONTENTS

- 2 交配相談サービス実施レポート 有限会社 拓進ファーム
- 4 北米における遺伝資源調査報告
- 6 現場レポート(乳) JP3H54477 レスポアール サンデイスター ハーゲンの故郷を訪ねて
- 8 注目のカウファミリー 第6回「グレンディー・ヘイブン アーロン パンビ ET」
- 10 現場レポート(肉) 第10回 全国和牛能力共進会に向けて
- 12 ニューゼaland探訪
- 15 ジェネティクス北海道 新人紹介

交配相談サービス実施レポート

浜頓別町：有限会社拓進ファーム
～メガファームにおける交配相談の活用法について～

ジェネティクス北海道は、2009年より交配相談サービスを提供させていただいております。本サービスは、近交係数の上昇を抑制しながら、改良目標に沿った種雄牛が推奨されることが特徴です。

今回は、浜頓別町の有限会社拓進ファームの中島専務に交配相談を始めるきっかけやメガファームにおける交配相談の活用法を伺いましたのでご紹介いたします。

浜頓別町は、北海道最北の宗谷支庁南部に位置するオホーツク海に面した町です。町内にある日本最北の湖、クッチャ口湖は世界のコハクチョウ飛来地として国際的に注目を集めています。毎年、秋(10月～12月)と春(3月～5月)に約1万数千羽が飛来し、その優雅な姿を見せることから町のシンボルとなっています。

(浜頓別町HP参照)

<http://www.town.hamatonbetsu.hokkaido.jp/kategorie/gaiyou/index.html>



浜頓別町

1 有限会社拓進ファームの概況について教えてください。

平成16年3月に4戸の酪農家が集まって設立されました。現在の飼養頭数は800頭、うち搾乳牛は440頭で25頭Wのパラーで搾乳しています。1頭当たりの平均乳量は9,500kg、平成23年度の出荷乳量は約4,400tでした。

人工授精はJA東宗谷の人工授精師に依頼しています。

2 どのようなきっかけで交配相談サービスを始めたのですか？

交配相談を始める以前は、授精

に供する種雄牛を個体ごとに繁殖台帳を見て決めていたが、多頭化が進んで一度に授精する雌牛が増加し、難しくなりました。さらに牛群の近交係数の上昇が気になり始めたので、これらを解決するために交配相談サービスの利用を開始しました。

『当社の交配相談は、ホルスタイン農協の血統登録情報を利用して正確な近交係数を知ることができます。さらに次世代の近交係数の急上昇を抑制する種雄牛が推奨されますので、近親交配の回避

を目的に交配相談を利用するメリットがあると思います』

3 交配相談でどんな改良目標を設定していますか？

第1形質を後乳頭の配置、第2形質を前乳頭の長さ

に設定しています。ミルクパーラーは群単位で搾乳をします。拓進ファームのミルクパーラーは、一度に25頭を搾乳することが可能ですので、1頭でもミルカーが付けづらかったり、搾乳速度が遅かったりすると、搾乳の作業効率低下の影響が全体に及んでしまいます。これを避ける

ことが出来る形質を設定して種雄牛が推奨されるようにしています。

拓進ファームは交配相談を利用して、①斉一性の高い牛群 ②搾乳性の高い牛群 ③長命連産性に耐えることが出来る乳器と肢蹄を持った牛群 ④人間が管理しやすい牛群の4つに重点をおいて改良をしていきたいと考えています。

『交配相談は、改良目標に適合する種雄牛が推奨されます。効果が牛群に表れるには長い時間を要するため継続することが大変重要となります。当団も交配相談を通して改良のお手伝いをさせていただきたいと思っております』

今回は、メガファームにおける交配相談の活用法を(有)拓進ファームの実施例で紹介いたしました。

メガファーム等、多頭化が進むと個体から群単位への管理となり、牛群に斉一性を求める傾向が強くなります。交配相談は、改良目標に合った種雄牛が推奨されて絞りこまれ、その結果、斉一性の高い牛群に改良していくことが可能になると思います。

大変お忙しい中、今回の取材にご

＜メガファームでの交配相談を活用するメリット＞

- ① 近交係数の急上昇を回避する種雄牛の選択
- ② 飼養管理作業の効率が高くなる斉一性を持った牛群への改良

協力頂いた有限会社 拓進ファームの中島専務に感謝いたします。今回頂きました貴重なご意見とご感想を活かし、より良い交配相談サービスを提供していきたいと考えています。御協力ありがとうございました。

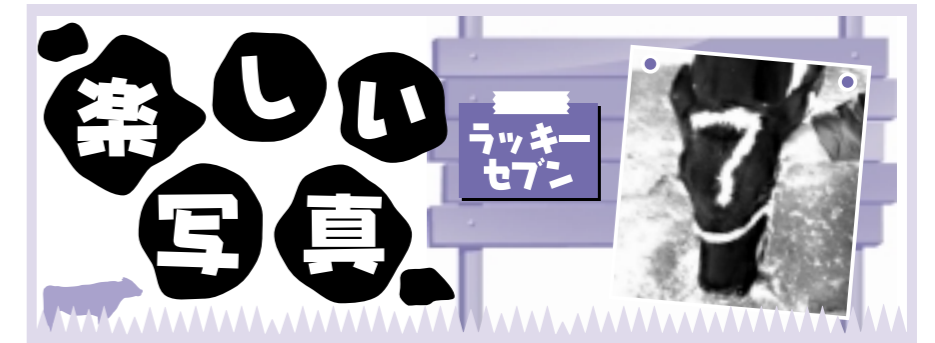
(改良情報課 大林 敏朗)



有限会社拓進ファーム(正面)



25頭Wのミルクパーラー



北海道限定

ジェネティクス北海道 交配相談サービス

理想とする牛群づくりをお手伝いいたします！
詳しくはお近くの事業所または改良部までご連絡ください。



北米における遺伝資源調査報告

去る3月にアメリカを訪れ、乳牛改良状況やブリーダーを訪問する機会を得ましたのでその一部をご紹介します

1 酪農情勢

訪問時における酪農情勢は総合的にみると、昨年同期と比較してやや低下気味にあるようです。

乳価は生乳生産量の増加によりやや下がっており、調査時の生産者乳価は約\$19/100lb(約35円/kg)と昨年より\$2~3/100lb(約3.5~5.5円/kg)下落しており、この傾向は今年上半期まで続く予測されます。

2 乳牛改良状況

今やジェノミックを持たないエリート雌牛はビジネスにならないといっても過言ではありません。

また、ジェノミックを検査するSNPチップも日々改良されており、現在ではGGP(GeneSeek Genomic Profiler 約9K)が幅広く利用されており、昨年未までに利用されていた低密度チップ(6K)よりもやや高価であるが遺伝的的不良形質(CVM、BLAD、BYなど)の検査がで

きる事から利用する人が増えています。さらに、現在はジェノミックの高い未経産を高額で購入し、将来の遺伝ビジネスの構築を目指している組織も出現しています。

3 ドナー牛の血統

ジェノミックを活用する事により世代間隔の短縮が進むことから、現在ドナー牛となるエリート雌牛は未経産牛に集中しています。また、その未経産牛の父牛、さらには母の

父がジェノミックヤングサイアであることは珍しくなくなっています。

父牛別にみるとスノーマン(父:オーマン)、シャムロツク(父:プラネット)【写真1、写真2】、ブツケム(父:プラネット)、ドメイン(父:トイストーリー)の娘牛達が多いです。

経産牛ではプラネット(父:タブー)【写真3】の娘牛がエリートカウとして活躍していました。プラネット娘牛は安定した高乳量を発揮し、体型面ではサイズは中程度で資質に富み、乳器の付着、形状に優れています。乳頭はやや短い傾向にあり、乳頭配置は理想的です。肢蹄については、やや曲飛気味で蹄の角度の小さい牛も見られる事から、交配には留意が必要と思われます。

現在フレディー、スーパー、マンオーマンのセカンドクロップ牛が分娩を始めており、良い乳器を付けているという情報が多いことから今後更なる活躍が期待されています。

4 計画交配に利用されている精液

ジェノミックヤングサイアアを利用する頻度は増えています。北米のAIセンターが計画交配に利用している精液のうち95%以上がヤングサイアであるというところもあります。

検定済み種雄牛では4月に公表されたTPIで全米3位(NTP+3,342相当)にランキングされたマツセイに人気が集中しています。マツセイの父マスコルはエムトトの息牛で、母コインファームス エレナ CRI ET(父:フォームプレット)はマンフレッド ヤダのファミリーです。乳器が良く、乳成分が高いのが特徴でさらにアウトクロスで分娩難易も低いことから、現在多くのブリーダーが利用しています。

(乳牛改良課 藤田 功)

1H09527
コープ ボスサイド
マツセイ ET

父

マスコル ET

母の父

ペツケンスティン
フォーム プレット ET

TPI +2,244 (全国第3位)
NTP +3,342
M +506kg
F +29kg 0.08%
P +24kg 0.07%
体型 +1.82
乳器 +2.13
肢蹄 +1.15



娘牛: グロテグト マツセイ 2128



写真1 レテイスマナー ドミニク ET



写真2 レオラ シャムロツク ベプルス



写真3 アモン ピーチイ シャウナ ET



JP3H54477



レスポール サンデイ スター ハーゲン の故郷を訪ねて

～豊高町 佐藤 道寛牧場～

はじめに

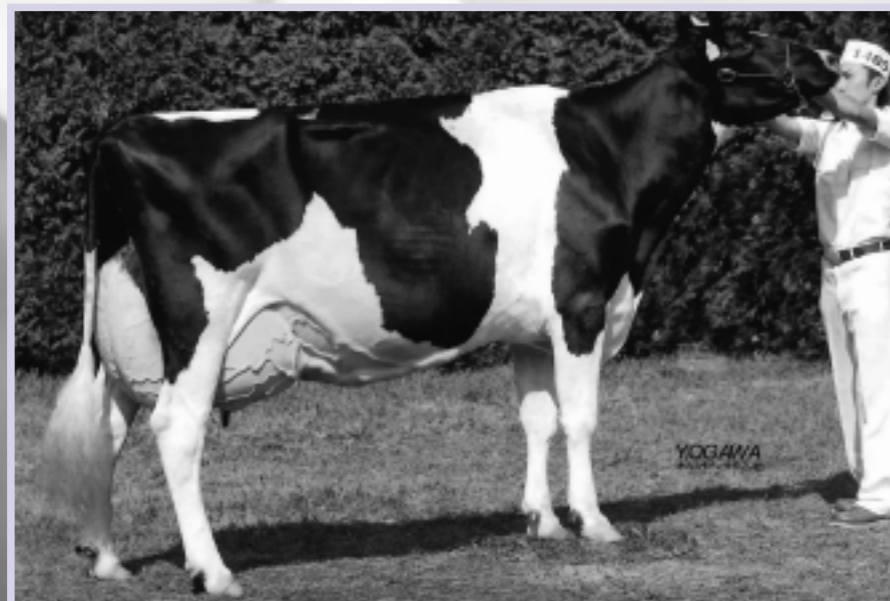
2012-2月乳用種雄牛評価成績において、豊高町から生産された2頭の種雄牛がNTPの上位に登場しました。

今回はその内の1頭、NTP第2位という輝かしい成績により新規選抜されたJP3H54477 レスポール サンデイ スター ハーゲン(略称:サンデイ スター)の生産者である佐藤道寛牧場をご紹介します。

豊高町の概要

佐藤牧場のある豊高町は北海道北部に位置し、日本最北の温泉郷として有名な地域です。西側には広大なサロベツ原野が広がり、酪農業が盛んで、町内生産の原料乳による「北海道豊高牛乳」「北海道サロベツ牛乳」は全国的に販売されています。

母牛 2006年 北海道総合共進会 グランドチャンピオン
2007年 北海道ナショナルショウ グランドチャンピオン



レスポール レーガンスター ハーゲン EX-95

牧場の概要

道寛さんは酪農学園大学を卒業後、ハーゲンの元祖を生産したアメリカ ウィンスコンシン州のクレセントミード牧場で1年間実習し、帰国後の2000年から父の信夫さんより経営移譲され3代目となります。家族構成は牧場主の道寛さん(36才)、奥様の薫さん、2人のお子さんと道寛さんのご両親の6人家族で牧場経営をしております。

飼養頭数は経産牛60頭(EX-10頭)、未経産牛50頭の総頭数110頭で、牛群平均乳量は10,000Kg、体格審査平均得点86.3点と全国トップクラスの好体型牛群を維持しています。

道寛さんが牛群管理で気を付けていることは、常に個体観察を意識することです。この地域は年平均気温5～6度と低く、気候条件

から乾草が取れにくいいため、粗飼料は極力水分の少ないサイレージを与えています。夏場は、足腰を鍛えながら、ストレス解消と発情確認をする上で放牧を行っています。

種雄牛の交配は、過去にストーム、ダーハム系を多く使用していたため、血液は慎重に選んでいます。新しい種雄牛は様子を見ながら選ぶように考えていますが輸入、国産精液と意識せず、バランスの取れた種雄牛を選ぶようにしています。今の悩みは尻の構造、特に坐骨の高い牛が多いので、坐骨の改良を意識して交配しています。

母牛レスポール レーガンスター ハーゲンについて

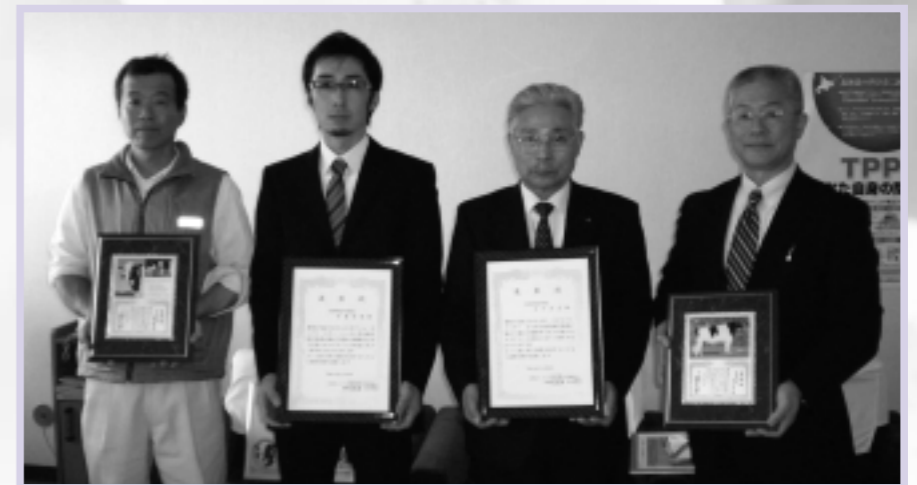
今や全国に名を轟かせている佐藤牧場のハーゲン ファミリーですが、サンデイ スターの母レスポールレーガンスター ハーゲン【写真】は、1974年に当牧場に導入されたハーゲン スター ブーツメーカーから数えて11代目になります。現在11歳となりますが、未だに素晴らしいフレームと乳器、肢蹄を備えています。

レーガンスターは2才時の2003年北海道ナショナルショウの1等賞を皮切りに、2004年同ショウでリザーブ インターミディット チャンピオン、2005年には第12回全国ホルスタイン共進会(栃木全共)で優等賞、そして2006年北海道総合共進会と2007年北海道ナショナルショウにおいてグランドチャンピオンと見事2連覇を達成しております。その後、2009年には8歳2ヵ月齢で日本最高得点EX-95点を獲得しました。当牧場に初代が導入されてから38年経過した今日、このハーゲン ファミリーは全国に多くの子孫を残し、我が国の乳牛改良に大きな足跡を残しております。

種雄牛 サンデイ スターの特徴

サンデイ スターが日本を代表するショウカウの母牛レーガンスターにサンデイバレー ボルトン ETの交配によって誕生したのは、レーガンスターが2連覇を達成した2007年の7月でした。候補種雄牛として導入された当時から四肢が長く、アップスタンディングであり、母親譲りの好体型ヤングサイアでした。

本牛は、評価成績で決定得点全国第3位、肢蹄2位、乳器第6位、乳量4位と好体型種雄牛で、さらに能力の遺伝的改良貢献度も高く、体型と能力のバランスがとれた種雄牛です。娘牛はフレームの強さと鋭角性を良く備えており、特に前乳房の付着の強さと後乳房の幅、高さの改良効果が顕著であり、乳器改良のスペシャリストと言えるでしょう。



左から: OJA北宗谷本所 家畜改良課 伊東孝弘課長 ○佐藤道寛さん
OJA北宗谷 石川岳志代表理事組合長 ○当団 荒井常務理事

佐藤牧場の目標

「管理しやすい牛群作りを第一に考えています。家族経営のため体型、能力を維持しながら良い粗飼料を確保し1産でも多く分娩をさせていきたい。また、共進会に積極的に参加し、多くの生産者との情報交換を大切にしていきたいと思っています。」

最後に

今回お忙しい中、快く取材を引き受けていただいた道寛さんに心より感謝申し上げます。

これからも佐藤牧場と、日本各地で活躍している多くハーゲンファミリーが益々繁栄される事を祈念いたします。

(道北事業所 中谷 英世)

2076902 クレセントミード ハーゲン スター 86
(グレナフロン ラグ アップル ハーゲン)

└ 2076904 ハーゲン スター ブーツメーカー 86
(バクラマー ブーツメーカー)

└ 2448391 レスポール ハーゲン シューブリーム 84
(アグロ エーカース シューブリーム)

└ 2970584 レスポール プレステージ ハーゲン 85
(プレステージ オブ レークハースト)

└ 3957241 レスポール ハーゲン マリナー 84
(ロツケリンマ エレベーション マリナー)

└ 4560542 レスポール フローリー ハーゲン
(ローマンデール クリスタル カウント)

└ 5071127 レスポール ハーゲン ブーツメーカー 84
(フィツシャーブレース マンデイ)

└ 5426808 レスポール ハーゲン スター 90
(ハノーバーヒル スターバツク)

└ 6420971 レスポール タウンデー ハーゲン 85
(A タウンソン リンデイ)

└ 6708152 レスポールボーレツト ハーゲン
(コンビネーション スーパーサイア)

└ 7010727 レスポール カムスター ハーゲン 91
(コムスター リー)

└ 812002940 レスポール レーガンスター ハーゲン 95
(レーガンクレスト エルトン ダーハム)

└ JP3H54477 レスポール サンデイ スター ハーゲン
(サンデイバレー ボルトン)

JP3H54477 レスポール サンデイ スター ハーゲン
NTP+3346(NTP第2位 2012-2月)

第6回 グレンディーハイブン アーロン バンビ ET

今回紹介するカウファミリーは、北米を始め欧州や日本でも活躍中の“グレンディーハイブン アーロン バンビ ファミリー”です。バンビ ファミリーは、好乳器・好肢蹄と高い泌乳能力に定評があります。特に乳蛋白の改良は絶大な遺伝力を示しており、北米のみならず欧州からも受精卵や種雄牛契約が多いことでも知られています。ファミリーを遡ると、当団種雄牛 H3179 オービー コスモ ETを輩出したオービー牧場を代表するオービー マーク カーメン (EX-92)と同一ファミリーになります。

グレンディーハイブン牧場は、ミネソタ州南東部のミシシッピ川流域に位置し、1980年代に牧場主ポール&ジャッキー・グレンデ氏が購入したのがオービー レックス ジュリー ET【写真2】でした。彼女にソーを交配したグレンディーハイブン ソー ジャミー【写真3】

は好体型・好乳器で4歳時に90点を獲得し、北米授精所からの種雄牛契約が多かったことでも知られています。このジャミーからの子孫が当場で枝葉を広げて大成し、今日のグレンディーハイブン牧場を代表するバンビ ファミリーを形成したと言えます。ジャミーの孫娘であるグレンディーハイブンアーロン バンビ ET【写真1】は、フレーム雄大で肢蹄が極めて正確で更に乳器の付着形状に優れ、初産分娩時より高能力を発揮して365日 M14,451kg F590 4.1% P452 3.1%の記録を残しています。彼女にはティームスターによる娘牛【写真4】、フィンリーによる娘牛をしてオーマンによる4頭の娘牛【写真5】【写真6】等があり、中でも現在のファミリーの軸はオーマン娘牛からのボルトンやゴールドウイン交配による子孫たち【写真7】【写真8】で授精所から注目されており、更に枝葉を広げています。

当団では、種雄牛造成のため平成15年にフィンリーによる受精卵と平成16年にソーサによる受精卵を導入しました。フィンリーからは雌2頭と雄1頭、ソーサからは雌1頭と雄2頭が生産されました。特に前者のフィンリーからの流れが枝幸町歌登 澤田礼二牧場でファミリーが広がり活躍しています。フィンリーによる1頭目のJ.C ワールド バンビ ETは初産時より高能力を発揮し、更に当団種雄牛トレビノによる娘J.C タイアラ バンビ【写真9】は好体型と牛群トップの高能力を発揮しており、今3産目で2万kgを突破し、現在NTP全国第43位にランキングしています。また更にトイストーリーによるJC ピンキー バンビ【写真10】はタイアラ バンビ以上の高能力を発揮中で、NTP全国第41位にランキングしています。もう一頭のJ.C フィンレイ バンビは、本牛はもとより子孫へも好体型を伝達しており、ゴールドウインによる孫娘J.C ピアラ バンビは4歳で88点(乳器89点)を獲得し、更に高能力を発揮中でNTP全国第172位にランキングしています。この他に、当団にはこのファミリーからのプラネット、マンオーマン、ヒル等の未経産が生産されています。

当団は高乳成分で高乳量、加えて機能性に優れた乳器・肢蹄を伝達するバンビ ファミリーの今後の活躍に大変注目しております。

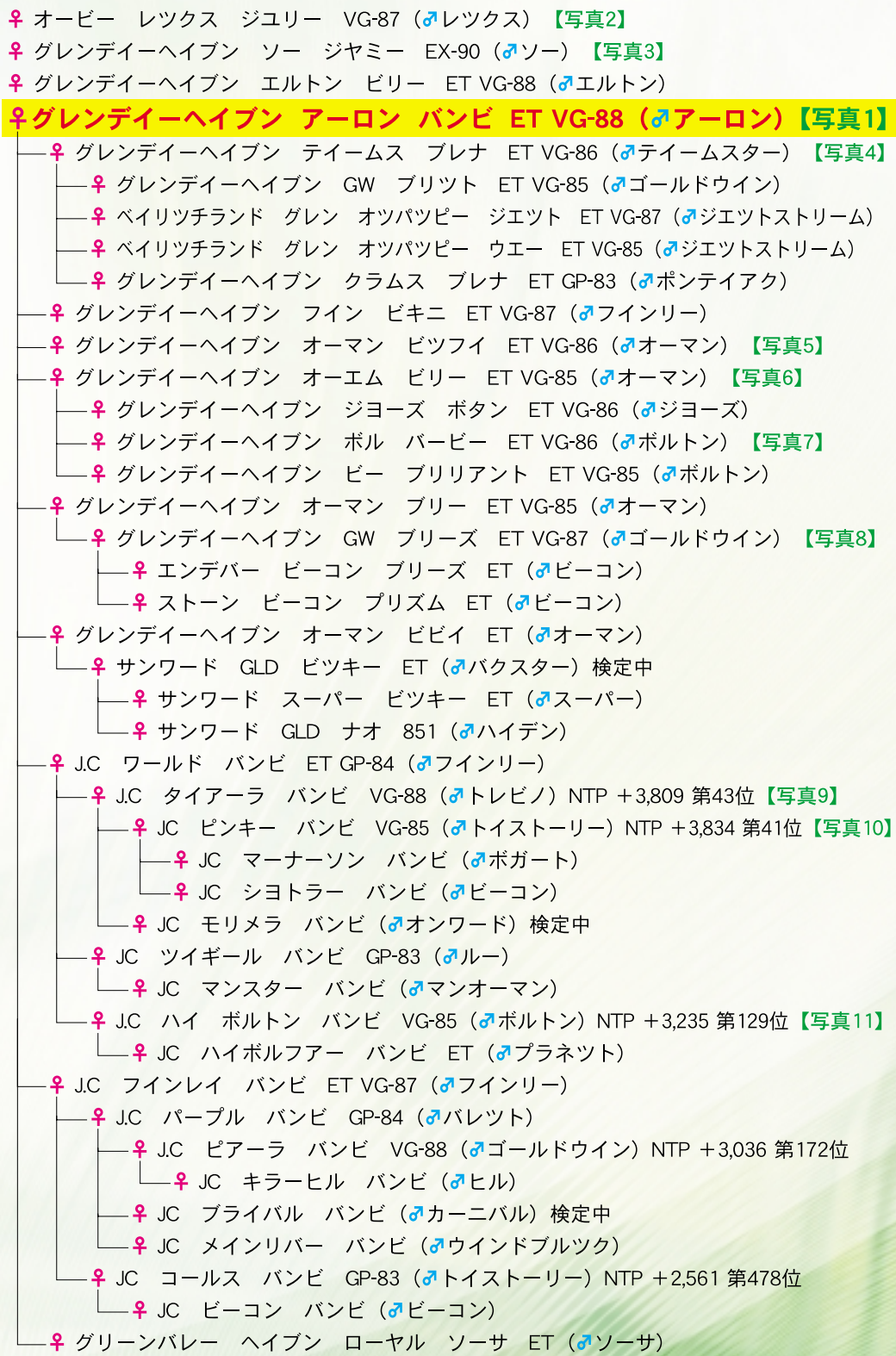
(改良部 伊藤 克美)



グレンディーハイブンアーロンバンビET



系統図



第10回 全国和牛能力共進会に向けて ～平取町育種推進組合の取り組み～

「和牛維新！地域で伸ばそう生産力築こう豊かな食文化」を大会テーマに、10月25日～29日に長崎県で開催される第10回全国和牛能力共進会長崎全共まで6カ月を切りました。北海道はもちろん全国各地で出品に向けた動きが最終段階へ入ろうとしています。

今回は、北海道代表として第7区「総合評価群」へ当団種雄牛「H黒-178 幹壺(もつぼ)」での出品に取り組んでいる平取町育種推進組合を紹介いたします。

平取町育種推進組合

平取町は日高管内の西部に位置しており、内陸部では夏は暑く冬は寒い大陸性の気候を持ち、太平洋に近い海岸側では夏の暑さも穏やかで降雪量が少ない海洋性の気候と異なる環境にあります。

平取町での和牛の歴史は、昭和37年に平取町和牛振興推進協議会が発足されたのを皮切りに、昭和43年に平取町肉牛生産振興会を設立、昭和53年に北海道4番目となる改良組合として認定され、平成19年に育種推進組合として動き出し、第9回鳥取全共では当団種雄牛「北勝福1」にて肉牛群では岐阜県に続く第2位、総合評価では1等2席の好成績を収めた記憶はまだ新しいものです。

同組合からは、第7区総合評価群への出品のほか、現在第3・9区の出産候補があり、また第1区の若雄の候補牛を1頭造成している実績もあります。

出品牛の状況

現在、出品に向け最終調整を

行っている種牛群は賀集昭知氏、佐藤貢氏、上田健吉の3戸の生産者、肉牛群は賀集氏、佐藤氏、佐々木俊成氏の3戸の生産者です。



賀集昭知氏



佐藤修氏



上田健吉氏



佐々木俊成氏

賀集氏は繁殖123頭、肥育31頭、佐藤氏は繁殖120頭、肥育170頭、佐々木氏は繁殖34頭、肥育8頭、上田氏は繁殖25頭を飼養しており、肥育においてはどの生産者

も上物率が高く、北海道枝肉共励会やその他の共励会で最優秀賞等を受賞するなど輝かしい成績を持っています。

最終調整に入っているこの4戸の農場に3月末に訪問致しました(候補牛は概ね約16カ月齢)。

【種牛群】

賀集氏が「1頭はやや発育が心配だが、それ以外は良い」と説明して頂いた牛は良好な発育をし、体幅、体伸が良く体積感がありました。



賀集氏の種牛候補

「全共の関係は、息子(修氏)が力を入れてやっている」と語る佐藤氏の牛は非常に発育が良く、体の伸びや体深に富み、資質も良く種牛性に富んだ牛が揃っていました。



佐藤氏の種牛候補

上田氏の牛はやや重たく感じるものの、他の牛に無い前軀の深さ、伸びに富み、これから最終段階の仕上げが楽しみな牛です。

ほとんどの候補牛は発育が良く、特に体の伸び、体深に優れていました。体積感がありながらも資質

の良さも兼ね備えており、10月の本番までにより良い体型になることが期待されます。

【肉牛群】

賀集氏は「まだ16カ月齢程度なので何とも言えないが、いつも通りに仕上がってきていると思う。冷涼と言われる北海道でも暑い夏がやってくるので、その時期に食い止まりをさせないで、全共の10月までに如何に仕上げるかがポイント」と前回の全共で乗り越えた壁、課題を見据えているようです。



賀集氏の肥育候補牛

佐々木氏は「生まれ落ちから良い牛で、そのまま大きくなってきており、肥育の仕上がりが具合はいつもと同じく順調」と上物への予感を感じています。



佐々木氏の肥育候補牛

平取町農協職員の石川大人氏は、「現段階でエコー検査を行った結果ではバラの厚さやロース芯の形状など良い傾向にある。これからサシが入ってくる時期なので、一般社団法人北海道酪農畜産協会が中心となっている調査チームの巡回指導に従い、最終段階に向け

て仕上げていきたい」と意気込みを語ってくれました。また、「この種雄牛の産子は現場後代検定事業で肥育している牛を見ると後伸びする牛だと思う。全共までに今以上に状態が良くなるはず」と期待に胸を膨らませています。

どの肥育牛を見ても体積感があり、肥育の仕上がりに期待が出来る牛達でした。



肥育牛の巡回指導

第7区「総合評価群」

この区は種牛能力と産肉能力を総合評価する出品区で、地域の改良の中核を担う種雄牛の産子を実証展示し、各地域の改良効果を確認することを狙っています。

出品は、全国和牛登録協会認定の育種組合がある道府県を中心として、それぞれの改良方針に基づき計画的に造成された同一種雄牛の産子を、種牛群(4頭)と肉牛群(3頭)合わせて1群として出品されます。

種牛群の月齢要件は17～24カ月齢未満、肉牛群は24カ月齢未満としており、北海道では育種組合認定への取り組みがなされている平取町育種推進組合が「H黒-178 幹壺(もつぼ)」で臨みます。

候補種雄牛 「H黒-178 幹壺」

幹壺の血統は北国茂×平茂勝×安福165の9×糸光◆。母方は島根県を祖先とする「もつぼ」の系統牛(本誌平成23年3月号でその取り組みを紹介)です。

平成20年1月6日に北海道石狩市の河野幹男さんの農場で生まれた幹壺は、非常に体型がよく85.4点の審査得点を持っています。平成21年の現場後代検定事業の対象牛にもなっており、枝肉成績は8月以降順次判明していく予定です。産子は父親譲りの発育や体型の良さが目立つ牛が散見されます。

最後に

和牛のオリンピックといわれる第10回全共への取り組みを勉強させていただいた中で、前回開催の鳥取県大会で苦労したことを教訓として、それが実となり長崎全共では花開くことを予感する取材となりました。

今回お忙しい中、候補牛の案内と説明をいただいた生産者の皆様、および平取町農業協同組合の皆様に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。



佐藤氏所有の家畜車

(道央広域事業所 廣瀬 大介)

ニュージーランド 探訪

南半球に位置するニュージーランドは、人口400万人に対し、羊は約7倍の3千万頭弱が飼育され、乳牛も約453万頭(2010年)が飼われています。農業、とりわけ酪農業は最大の産業であり、輸出総額の25%を占めています。放牧中心で季節繁殖など、日本とは異なる独特なスタイルを貫く酪農王国を、初めて探訪する機会がありました。

真冬が続いていた二月の末、富良野地区を中心とする酪農婦人の海外研修に同行させていただき、初秋のニュージーランドへ飛び立ちました。

【牧場見学】

現地時間の朝10時(日本時間朝6時)、クライストチャーチ空港に到着。ポーとした頭が爽やかな風に吹かれて、無意識に空を見上げているうちに、長時間フライトの疲れも白雲とともに真っ青な空に流れて行きました。

見学する牧場は空港から車で20分位の小さな町「リーカン」の郊外にあります。延々と連なる緑豊かな丘や、平坦で広大な牧草地に、羊や馬、そして色々な柄の牛たち(交雑種)はのんびりと草を食べているのを眺めながら牧場へ向かいます。(写真1)日本にあまりないスプリンクラーも良く見かけ、アームの長さが1kmほどの巨大なものに驚きました。降水量が少ない地域には、このような灌漑設備は欠かせないようです。(写真2)

「リバープレー デーリィ ファーム」(写真3)に到着し、オーナーのマッキントッシュご夫妻が可愛い赤ちゃんを抱っこして迎えてくれました。案



写真1



写真2

巨大なスプリンクラー



写真3



写真4

ペットの豚ちゃん



写真5

入浴中の羊さん

内する前に、お庭で遊んでいるペットの豚ちゃんと入浴中の羊さんにも来客を知らせます(笑)(写真4・5)何と平和で優雅な生活!歩きながら牧場概要を聞くと、祖父の代から今の場所で牧場を始めて、労働力は繁殖ピークの時期に臨時従業員を雇いますが、普段は父や弟などを含む家族中心の5~6人です。ニュージーランドでは「コントラクトミルク」や「シェアミルク」という形式の経営もありますが、ここは日本と同じ家族経営を中心とするオーナー形式です。搾乳牛は約700頭、すべて登録済みのホルスタイン種で、一頭当たりの年間生産量は乳固形分で500kgです。生乳取引は乳固形分あたりの単価で行われるため、固形分で生産量を表現するのが通例で、液体に換算すると6,300kgです。ニュージーランドでは、ホルスタイン種(フリージアン種)は乳牛全体の4割強を占めており、牛の登録率は70%、平均飼養頭数

386頭で、国全体の平均生産量は310kg(液体では3,950kg)となっているので、当牧場はいずれも国平均より大きく上回っています。搾乳中自家製のグラスサイレージ(年間1500トンを作っている)や専用機械で作った圧ペン大麦やミネラルなどを与えていることが大きな生産量を誇る要因だと思われます。

建物施設は乾草の貯蔵庫、搾乳パーラー、分娩房と仔牛の小屋ぐらいいかありません。40頭のロータリーパーラーで一日2回搾乳、所要時間は3~4時間で、すべてコンピューター管理、月に2回立会検定を受けます(写真6)。冬に搾乳しない牧場が多いが、この



写真6

搾乳中給餌可能



写真7

25tの貯乳タンク

牧場は冬も搾ります。乳価も冬季の間は高いそうです。将来牛群を二つに分けて搾乳する計画があり、現在、別な場所でもう一つのロータリーパーラーを建設中です。貯乳タンクは縦型の25トン容量で、北海道の一般的なバルククーラーよりかなり大きいです(写真7)。

搾乳時間中に出た糞尿はパーラー外の地下に集められ、肥料としてポンプで汲み上げホースで散布します。分娩房は簡単な仕切りだけの小屋で、分娩ラッシュの時期には、一日数十頭の仔牛が生まれます!近くの仔牛小屋にホルスタイン種とジャージー



写真8



写真9

ユニークな哺乳容器

種のF1仔牛が数頭いました。すべて初産で難産を回避するため、ジャージーを交配したもので、後に肥育牧場へ販売する予定です(写真8・9)。年間誕生する仔牛は約250頭、2ヶ月前後で離乳させます。使用する精液の殆どはカナダSEMEX社のもので、最近よく使っているのは「タレント」だそうです。国産精液は生精液が多く流通していますが、この牧場では凍結(輸入)精液を使います。平均産次は10産前後が多く、17~18歳の牛も決して珍しくないのは、他の牧場と同じだそうです。

最後に、車に乗って一番近いパ



写真10

ドック(放牧地)「MOY」へ案内してくれました(写真10)。さすが全て純ホルスタイン種なので、よその放牧地で見たと違って、白黒のみでした(笑)。ほぼ同じ月齢の牛たちを小牛群として同じパドックに入れて、定期的に別なパドックへ移動させます。放牧地や畑にはやはり自動式スプリンクラーが稼働していました。



【マーケット見学】

スーパーマーケットの乳製品売り場の前に立つと、ひと際目に入るのは牛乳や飲むヨーグルトが入っている大きなプラスチック容器(写真11)。コーヒー味やフルーツ味など、プレーン以外もたくさんの種類が揃っています。それにまだ日本ではそれほど多くないオーガニック乳製品も、ここではずらりと並んでいます。個々のボリュームが多いせいか、一品あたりの価格は思ったほど安くはありません。例えばオーガニックチェダーチーズは、1kg当たりで千円弱、気になるヤギチーズも200gで約520円。大手メーカーのクリームチーズは1kgで2千円以上します。チーズにもレモンやアーモンド、アプリコット、それにガーリックまで原料に混ぜているなど、種類は数えきれませんでした(写真12)。さすが輸出大国！

【感想】

ニュージーランドは一年通して真夏日も真冬日も少なく、風通しが良いので、最も放牧に適する気候です。言うまでもなく、広大な土地資源は放牧酪農を実現させる最大の要因です。



平均乳量は日本の半分以下ですが、長寿性と生産コストでバランスを取り、プラス大規模経営で、独特な酪農産業スタイルが樹立していることをよく理解できました。それに比べて、同じ酪農産業でも、環境条件では勝てない日本は、飼養管理と個体改良に力を入れることによって、世界トップクラスの個体生産能力に達していることは、生産者たちの日々の地道

な努力と数十年にわたり積み重ねた改良の成果だと切実に感じました。ニュージーランドは「自然型酪農」だとすれば、日本は「改良型酪農」で進む道しかありません。当団の推進事業である遺伝改良の重要性を、改めて認識する旅でした。

この有意義な旅を共にさせていただいた富良野農協および酪農婦人の皆さまに深く感謝を申し上げます。(業務部 唐 紅燾)



お詫びと訂正

前号サイア(393号)の記事「現場レポート(肉)」(P6)と新規種雄牛の紹介(肉)(P14)において間違いがありましたので、お詫び申し上げます。

●現場レポート(肉) 6ページ



誤: 右から専務の上田朗人氏と常務の上田誠也氏

正: 右から専務の上田朗人氏と常務の上田晴也氏

●新規種雄牛の紹介(肉) 14ページ
H黒-197 美津北平

黒原 5338 平成22年1月9日生 得点82.3点		
北平安	安平	安福(宮崎)
	てるふく3	菊照土井
	第1花園	北国7の8
ふみえ	ふみえ1	美津福

黒原 5338 平成22年1月9日生 得点82.3点		
北平安	安平	安福(宮崎)
	てるふく3	菊照土井
	第1花園	北国7の8
ふみえ1	ふみえ	美津福

ジェネティクス北海道 新人紹介



十勝北見事業所
たちばな ゆう すけ
橘 佑輔

生年月日 平成2年2月21日
出身地 大阪府
出身校 帯広畜産大学
趣味 硬式テニス・スノーボード

高校時代に牛を一頭(黒毛和種)世話したことで牛好きになり、大学ではほぼ毎日搾乳アルバイトと餌やりバイトをして牛と関わってきました。部活は硬式テニス部でした。

高校の大先輩や大学の部活の先輩が活躍している当団に入社し、先輩に恥じない活躍ができるように日々努力していきます。そして、皆様に一日でも早く顔を覚えていただけるように一生懸命頑張りますのでご指導のほど宜しくお願い致します。



十勝北見事業所
いぬい ひと み
乾 仁美

生年月日 平成5年7月12日
出身地 帯広市
出身校 帯広南商業高等学校

高校時代はサッカー部に所属しておりました。3月から先輩の業務を引き継いで仕事をしておりますが、まだまだ迷惑をおかけしてばかりです。

社会人1年目で何もかも初めての事なので不安はありますが、仕事に対して努力を怠ることなく、先輩達を目標に前向きに走り抜けていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



道東事業所
た しろ あゆみ
田代 一步

生年月日 昭和63年8月24日
出身地 札幌市
出身校 帯広畜産大学
趣味 スキー、ジャグリング

高校から大学までラグビーをしており、打たれ強さには自信があるのでバシバシ打たれてドンドン成長していきたいと思えます。3年近くペーパードライバーなので、まずは安全運転を習得できるよう練習に励みたいと思えます。

一日でも早く皆様のお力になれるよう頑張りますので、ご指導のほど宜しくお願い致します。



道東事業所
い し ぐろ りゅう じ
石黒 隆司

生年月日 昭和60年1月3日
出身地 札幌市
出身校 中標津高等学校

2月より道東事業所種畜管理課に配属となりました。私には誕生日が1日違いで1月4日生まれのお姉さんがおり、いつも誕生日会など2人まとめて行われていました。学生時代はバレーボールと陸上をやっていました。昔は細かったのですが、今は丸々とした体になってしまいました。

種畜管理の仕事ということで、雌牛とは全く性質が違い日々悪戦苦闘していますが、1日でも早く種牛に慣れるように努めてまいります。宜しくお願い致します。



道央種雄牛センター
もり しげ まさ や
森重 雅也

生年月日 平成5年6月19日
出身地 別海町
出身校 別海高等学校

実家は酪農を営んでいて、8人兄弟の三男です、小さい頃から牛と共に育ち、沢山の栄養をもらってきた影響で体は丈夫です。

幼い頃から牛を扱う仕事に就く事が夢だったので、大変嬉しく思っています。早く仕事を覚え、しっかりと種雄牛を管理出来る様一生懸命頑張ります。今後ともご迷惑お掛けすると思えますが日々努力して参りますのでご指導宜しくお願い致します。



十勝清水種雄牛センター
ひ の はら けん や
日野原 賢也

生年月日 平成6年1月22日
出身地 美瑛町
出身校 旭川農業高等学校

実家は酪農業をしていました。中学校の頃から6年間吹奏楽をやっており、同じ趣味などお持ちの方がいらっしゃいましたら、お会いした時にお話ししていただければ幸いです。

今年は社会人として1年目なので、沢山の迷惑をおかけすると思えますが、一日でも早く先輩方に追いつけるよう、日々精進していきたいと思えます。これから宜しくお願い致します。